

# 会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	折尾地区
開催日時	平成23年12月7日(水)
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 仲間 浩一 (九州工業大学大学院 工学研究院 教授) 牛房 義明 (北九州市立大学経済学部 経済学科 准教授) 東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会委員) 横田きみよ (コンセプトピディア 代表) 事後評価実施課(事業課) 建築都市局折尾総合整備事務所計画課 検討会事務局 建築都市局事業調整課
議事内容	1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 (1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について (2) 事後評価手続き等にかかる検討 (3) 今後のまちづくりについて検討 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<b>事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</b>  <b>事後評価手続き等にかかる検討</b>  <b>仲間 座長</b> ご説明ありがとうございました。30分程度、説明に対する質疑等の時間を取ります。指標が合計6つ設定されています、その達成状況等について構成員の皆さまからご意見を頂ければと思います。  <b>牛房 構成員</b> 今回の都市再生整備計画(折尾地区)と折尾地区総合整備事業とは、同一のものですか。また、折尾地区総合整備事業には、目標や指標を設定しているのですか。  <b>事業課</b> 総合整備事業は都市再生整備計画のなかで関連事業として位置づけており、総合整備事業として具体的数値指標の設定等は特に定めていませんが、本計画と同様の目標に向かって事業を進めている状況です。  <b>仲間 座長</b> 都市再生整備計画(折尾地区)と折尾地区総合整備事業とは、範囲が異なります。都市再生整備計画のなかに総合整備事業エリアが含まれており、都市再生整備計画

のエリアは非常に広いエリアとなっています。そして多くの事業を総括する内容となっています。

**仲間 座長**

その他の指標は、事業期間の途中で設定された指標なのですか。

**事業課**

今回の事後評価にあたり設定しました。

**仲間 座長**

4つの評価指標だけでは、事業の細やかな達成度合いや達成度の質が十分説明しづらいため、それを補足するために新たな指標として設定したということによろしいですか。

**事業課**

はい。

**横田 構成員**

指標1について、折尾駅へのアクセシビリティの向上により乗降客数が増加したと説明されましたが、私は直接的にイメージしづらかったです。また、折尾地区だけではないが、住民やワークショップ等に参加された方へのアンケートなどをして、実感としてどうまちが変わってきているのかなどを把握し、今後その他の指標に追加できないのかと思いました。

**仲間 座長**

効果発現要因に関わるところでもありますが、何が要因でこう変わったというのを市民の生活実感に裏付けられた方が分かりやすく良いのではという指摘だったと思います。

**事業課**

今回の事業計画では10路線の道路に取り組みましたが、実際道路が開通したのはそのうち3路線しかありません。大膳20号線など小さな道路のため、道路整備によりJR折尾駅の乗降客数がこれだけ増えたとか、アクセシビリティがこれだけ向上したとは、なかなか説明しにくいですが、新しい路線ができることで確実に駅へのアクセスビリティが向上していると考えています。

**牛房 構成員**

目標値の設定の仕方について、推計値を回帰式等で算出していると思いますが、おそらく直線の式で算出していると思いますが、実際が曲線の式になっているかもしれない。そうするともっと減少が緩やかな回帰式になっていたかもしれない。それだと現状の推定値よりかなり高い値の推定値が出てくると思いますので、実際には評価値と比べたらそれほど大差はないという可能性もあります。もっと現実に近い推計値の算出の仕方をすれば、もっと良かったかと思います。

**事業課**

今回の推計は、過去5年間の直線式で算出しております。

**牛房 構成員**

指標全体の話になりますが、事業期間が18年間と長期になっているので、

短期・中期・長期で目標及び指標を分けて設定すれば良かったのではと思いました。大膳20号線について、整備されることでアクセス時間がどれだけ短縮されたのかが分かればもっと良かったと思います。また、バスの折尾駅までのアクセス時間もどれだけ短縮されたなど示されれば良かったと思います。歩行者通行量などもアクセシビリティの向上に関する指標に使えると思います。

**仲間 座長**

街なかの範囲はどのように設定しているのですか。また、街頭犯罪認知件数のエリアはどのエリアになるのでしょうか。

**事業課**

まず、街頭犯罪認知件数につきましては、指標4折尾土地区画整理事業施行地区内の老朽住宅棟数の代替指標としていますので、駅南側の区画整理事業区域を含む折尾西小学校区、則松小学校区の街頭犯罪認知件数を集計しています。

街なかの範囲については、折尾駅を中心に都市施設・利便施設などが集積している約1km程度の町丁目別の人口を集計しています。

**牛房 構成員**

ちなみに藤原は入っているのでしょうか。

**事業課**

入っています。

**牛房 構成員**

駅1km圏の居住人口が増加した原因は分譲住宅の影響があったのですか。

**事業課**

そう考えています。

**牛房 構成員**

老朽住宅の移転先の選定に時間を要したとありますが、これは、事業により一旦立ち退いて、どこかに移って頂く先の選定が遅れたということですか。

**事業課**

そういうことです。立ち退いて頂いて、そこを更地にして新しく造成していく訳ですが、一旦どこかに移転して頂く、あるいはその地区から出て頂く、そういった移転先の選定というのが、一人ひとりご都合がありますので時間を要しているという状況です。

**仲間 座長**

指標3の児童館利用者数についてですが、実際見させて頂いて素晴らしい児童館であったし、利用体制などのソフトも充実していると感じましたが、今回の計画事業エリアの中にこれと同様の行政サービス（児童館の整備）を今後も数カ所で続けていくという前提なのですか。

**事業課（担当課より説明）**

今のところ、今後新しく児童館を建設する予定はありません。市内の42児童館については利用環境の改善を目的とした大規模修繕の計画はあります。

## 仲間 座長

計画事業エリア全体に対して等しく評価対象となる指標があるのに対して、例えば街なか居住など、街なかにエリアを絞って評価しているものもありますし、児童館のように利用エリアに限って評価しているものもあり様々です。

街なかエリアの設定については大目標を踏まえると異議はありませんが、児童館については1児童館を整備したからそのテリトリーの方の利用率が向上したに過ぎず、エリア全体の目標である子育てしやすいまちづくりにつなげるには少し違和感があります。北側にも同様の施設を整備する計画があるのであれば良いが、なければ少し苦しいと思います。

## 事業課

今回の整備計画の指標は、事後評価を行う時点で、ご指摘のような点があると感じたところです。今後2期計画もありますので、その辺を十分に注意して考えていかなければならないと考えています。

## 仲間 座長

児童館の整備が今回この地区の中でここだけであっても、目標というのは、少子高齢化に対応するために、子育てしやすいまちづくりを推進するというのが目標であるので、別のブロックでは別の方法でこの目標に対応する事業計画の評価指標を作られても良いと思います。そこを忘れないように是非継続して頂きたいと思います。

## 今後のまちづくりについて検討

## 仲間 座長

達成できなかった指標についてのご見解や今後のまちづくり方策についてのご意見はございませんでしょうか。

## 横田 構成員

今後のまちづくり方策についてですが、計画期間が長いので、まだまだ今から出てくるのかと思いますが、「子育てしやすいまちづくりの推進」の想定される事業の欄に2つしかないのかと思いました。

また、「子育てしやすいまちづくり」の子育てしやすいということはどういうことを明確にし、それに向かって課題となる点を解決する取組みが今後のまちづくりに入ってくるのではと思うのですが、一般的に児童館に預けることができるとお母さんが働くことができるということはありますが、おそらく公園を作るにしても、例えば乳幼児の方が公園を訪れたときに、どうあったら使いやすいのかとか、細かいようですが意外とそういうところが大切であると思いますので、どんなふうの子育てしやすいまちづくりをしていくのかというところを知りたいと思います。

おりお未来21協議会により「折尾まちづくりビジョン」などが提言され、今もデザインなどのWSをされていると思うのですが、協議会に入られていない方にも、冊子を作られて情報発信をされているだけでなく、駅など持って行って頂きやすい場所に置いたりとか、大きな看板を作ったりしているとか聞きましたが、そのように知って頂くための工夫がこの評価の結果からは見えてこないの、表記された方が良いと思います。

「折尾まちづくりビジョン」については、平成20年度で流れが終わっているように見えたのですが、今後、おりお未来21協議会とともに次のステップのまちづくりビジョンを今までを踏まえながら作っていくのか、あるいは2期計画を作るにあたってどのような工夫をされていくのか、今お話できる範囲で教えてください。

## 事業課

おりお未来21協議会の「折尾まちづくりビジョン」では、4つの柱で提言がなされており、商業・賑わい検討については部会で継続的に景観デザインを、また、折尾駅舎の保全活用につきましても、同様に検討部会で引続き検討しています。ビジョンをいかに具現化するかにあたっては、地元と行政と一緒に検討していますので、20年度で足踏みしているという訳でなく継続しています。

## 横田 構成員

伝わってくるものたりなさがあります。折尾の方がキャンドルなど積極的に活動しているようですが、頂いた情報から見えてくるものが、形式的にしか見えないところがもったいないと思いました。その点をなにか工夫できないかと思っています。

## 仲間 座長

私が通訳するのもなんですが、評価指標の達成のための効果発現要因や今後のまちづくり方策の残された課題など、実際そこに住んでいる市民自身の活動が見えてきたり、本当に利便性が向上して住みやすくなったという実感があるかどうかというところが、事後評価シートの記述からはあまり感じられないと普通の人と思う。

行政文書を公開しているので、なかなか難しいとは思いますが、行政文書の中に、地元の方と一緒に進めているとか、地元の人暮らしの実感はこうですよとかなど、生きたリアルな情報が記載されるような工夫が欲しいということではないでしょうか。私も実感としてはそう思います。

## 仲間 座長

添付様式5 - に残された未解決の課題として、「まだ本格的な街なか居住には至ってない」とありますが、街なか居住をどのように考えているのか、もう少しはっきりさせた方が良いと思います。

今回その他指標で街なかにおける居住人口という項目を設けており、「本格的な街なか居住」とか「街なか若干進んだ」とありますが、街なか居住とは、どんなライフスタイルでどういう暮らしをしているのか。例えば、折尾駅のアクセス向上も含めた時に、普段どんな移動をしているのか、子育てとすることであればどんな年齢層の方が暮らしているのかなど、そういうイメージがさっぱり浮かんできません。

少なくとも、本格的な街なか居住とは、折尾にとってどのようなものなのか。計画事業全体のエリアはどう同心円状の構造になるのか、つまり、かつてニュータウンだったところ、徒歩で折尾駅にアクセスできないエリアは、だんだん居住人口密度が下がっていくことはやむなしとっており、そういう地域はどうぞ車を使ってくださいということなのか。しかし、本格的な街なか居住エリアというのは、歩行動線や自転車移動が極めて重要で、そのエリアの交通体系は、バスと歩行と自転車がきちり分けできるとか、何かもう少し折尾地区の都市再生整備計画事業の中で、街なかという概念を導入したから出てくる全体の組み立て、あるいは、街なかと街なかでないところをどうやって計画目標を切り分けるかみたいなビジョンが、残された未解決の課題とか事業によって発生した新たな課題とかに、もう種が出てきても良いと思います。そこをもうひと工夫して欲しいと思います。

折角、街なか居住と言うものを新たな指標に導入したのだから、それによって見えてくる新たな都市の姿、この事業エリアの姿・構造とか、取り組んでいく課題とかが逆に見えてきたのではないかと思いますので、それを表現していくべきだと思

います。ちょっと大きな課題になって申し訳ありませんが、意見として受け止めて頂き、部分的にでも検討して頂ければと思います。

#### **牛房 構成員**

土地区画整理事業は、基本的には立ち退いて頂いて街を整備していくという事業なため、立ち退かれるとどこかの地域に移られることになると思いますので、指標2で考える人口が減少する可能性もあると思います。折尾地区内に移って頂けるなら人口減少にはなりません、土地区画整理事業を進めていくということと、居住人口または街なかにおける居住人口を減らさないですむ工夫も考えて行かなければならないと思います。

今後のまちづくり方策についてですが、折尾駅というと周辺に大学もありますし、また学術研究都市もありますので、(学術研究都市は都市再生整備計画もありますし) 連携なども考えながら進めると良いかと思えます。

#### **事業課**

補足ですが、土地区画整理事業につきまして、移転もあるのですが、今住んでいる方に一旦仮に移って頂き、整備が終わったらまた戻ってきて頂きそこで生活をするという形にもなっています。居住人口(計画人口)を区画整理事業として掲げており、事業区域内でも人口を増加させる計画としています。

#### **横田 構成員**

今後のまちづくりについて、ひとつのこの街の個性として学校が多いということがありますので、今後のまちづくりの中に学生や若い人を巻き込んだ展開が考えられると思えました。例えば活かし方としても、安全安心、子育てづくりなど、折尾地域にある大学との連携方策が考えられると思えました。

#### **仲間 座長**

添付様式7「事後評価原案の公表」について、公表期間や公表方法などが記載されており、「説明会・ワークショップ」は今回実施していないということですが、何か「事後評価原案の公表」についてご意見があれば頂きたい。

#### **横田 構成員**

今回ホームページのトップに掲載されたのは良かったです。しかし、内容が今よく分かりませんでした。別資料として概要版とかまでいなくても、エッセンスを整理したものがあっても良かったと思えました。また、時間的に短いということではありますが、それぞれの地元の方々への説明会やワークショップなどもあれば良かったと思います。

#### **事業課**

今回空欄にさせて頂いておりますが、実は事後評価原案を公表することを地元の方々知って頂こうと思ひまして、おりお未来21協議会、商業団体の折尾商連、折尾地区全体の自治区会の役員が集まった会合などに出席させて頂きまして、今回の事後評価の公表、まちづくり交付金についてご紹介させて頂いております。意見書として出たのは、8件のうち4件だけですが、今回皆様に周知するというところでは、今回新たな取り組みとしてさせて頂きました。

#### **仲間 座長**

どうして書いてないのですか。

## 事業課

事後評価結果そのものを詳しく説明したというところまでは至ってなかったの  
で、記載まではしませんでした。説明の際には、資料を作りまして地域の方々に配  
布させて頂いておりますが、ちょうどこの時期に九電のやらせ問題もあり、積極的  
に意見を出して欲しいと言うことが、はたして良いのだろうかというようなことが  
ありました、ニュートラルな形でこのようなお知らせを市政だよりの後に関係者の  
方に配りまして、その時に頂いた意見はちゃんと頂戴させて頂いております。

## 仲間 座長

時期的に複雑な社会情勢の時であったかもしれませんが、この検討会で堂々と言  
うことができるのであれば、記載して頂いた方が良いと思います。地元の受け皿の  
団体に対して事後評価原案そのものは出していないかもしれませんが、まちづくり  
プロセスの中など、どこかに記載できるのであれば、もう少しはっきりと記載  
して良いと思います。九電は九電で、北九州市が恐れることはないと思いますので、  
自信をもって評価書を作ってもらえれば良いと座長として思います。

## 東 構成員

昨日サンリブから駅東口まで歩いたのですが、道が分かりづらかった。また、今  
研修で半年ぐらいこちらに来ているという方にも話を聞いたのですが、タクシーで  
東口にと言うとならぐ遠廻りされたとか、結構ネガティブな意見を頂きました。最  
終的にはそういう不都合なところも改善され、目標も達成されると期待していま  
す。

子育てに関して児童館が出来ましたが、高齢化が進んでいるので、高齢者の力を  
借りるというところに着目されたら良いのではと思います。児童館は世代間交流の  
場にも活用できると思います。これから駅西口側のエリアにも交流の場があれば、  
まちの発展につながると思いました。また、国際交流や全国から研修等で長期滞在  
している方などが交流できるまちとして、折尾駅を中心とした地区が北九州市全体  
のモデル地区になっていくと良いと思います。また、その可能性があるのではない  
かと思いました。この計画が最終的に完成したときには、市全体からみて素晴らし  
いケースになっていければ良いと思いました。

## 仲間 座長

色々な意見や課題はありましたが、現時点で事後評価の手続きが適切に遂行され  
ているということによろしいでしょうか。

## 構成員一同

了解。

# 会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	八幡地区
開催日時	平成23年12月7日(水)
開催場所	北九州市役所 15階 特別会議室B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 仲間 浩一 (九州工業大学大学院 工学研究院 教授) 牛房 義明 (北九州市立大学経済学部 経済学科 准教授) 東 恭子 (第10期 北九州ミズ21委員会委員) 横田きみよ (コンセプトピディア 代表) 事後評価実施課(事業課) 環境局環境未来都市推進室 検討会事務局 建築都市局事業調整課事業課
議事内容	1 開会の挨拶 2 座長、構成員の紹介 3 事後評価制度の概要説明 4 議 事 (1) 当該地区について説明 「まちづくりの経緯説明」「事後評価手続き等」「今後のまちづくり」について (2) 事後評価手続き等にかかる審議 (3) 今後のまちづくりについて審議 5 事後評価検討会後のスケジュール 6 閉会の挨拶
構成員の 主なご意見	<b>事業課より、当該地区のまちづくりの経緯、事後評価手続き等、今後のまちづくりについて一括説明</b>  <b>事後評価手続き等にかかる検討</b>  <b>牛房 構成員</b> 指標1について、関連する事業が2つしかないのでどれだけ関連して発現効果があったのか、指標の設定に課題が残ると感じます。 指標3について、環境は省エネだけではなく、ゴミのこととかもあるのではないのでしょうか。対象が東田地区に限られているので、八幡地区全体に対応した指標の設定がよかったのではないのでしょうか。  <b>仲間 座長</b> 指標の設定については、過去の事業担当者が議論して設定したもので、きちんとした理由があるのだと思います。 私から付け加えると、基幹事業が指標1～4にきいていない。指標の設定の妥当性についてご説明いただけますか。  <b>事業課</b> 正直、つらいところがあります。道路を整備すれば人が来るということは言えると思いますが、今回は、補修などで新しく整備した道路はありません。色々ご意見

を伺って、指標の修正を検討したいと思います。

**仲間 座長**

例えば、基幹事業に板櫃川親水空間整備事業がありますが、環境ミュージアムのスタッフが参加したような説明会や見学会、社会教育事業に参加した資料はありますか。

**事業課**

連携しているので、数はわかりませんがあると思います。

**仲間 座長**

環境ミュージアムが関わった社会教育などのイベントへの参加者数を環境ミュージアムの参加者数に加えるといったようなことが必要なのではないのでしょうか。フィールドを施設の中だけでなく、活動全体を対象にしてもよいと思います。

**横田 構成員**

環境ミュージアムの市民ボランティアについて、活動人数や活動回数など参考になるようなものはありますか。

指標3については、東田の省エネ住宅が対象とのことですが、この住宅を購入する人の理由の一つに省エネがあるので、100%は当たり前だと思います。電気代が下がったのは省エネ住宅の効果があるのではないですか。指標をどうしろということではなく、住民の方の意識の変化を確認できませんか。

**仲間 座長**

指標2、4についてはどうでしょうか。

**横田 構成員**

指標2については、前回も言ったように、何の目的でこの駅で降りたのかがポイントだと思います。東田以外の方の評価軸があってもよいと思います。

指標4については、駅周辺では居住人口が伸びていて、その他の減少部分を補完しているがそれでOKということではなく、今後のまちづくりの方策に入ってくるのではないのでしょうか。

**仲間 座長**

指標4について、総合所見の中では既成市街地における人口減少の抑制につながったと記載されていますが、今回のスライドをみると違うようにみえます。これは正しいのですか。

**事業課**

整合性がとれていません。東田を含めて既成市街地に入れて計算しています。既成市街地は東田を外したエリアだと思います。人口抑制につながったというのは言い過ぎかなと思います。

**仲間 座長**

これは正直に書けばよいと思います。全域が街なかということはいいと思うので、その中に新しい街なかと古くからの街なかというのがあって、それぞれの傾向を書けばいいのではないのでしょうか。評価で大事なことは、要因分析をきちんと行

い、次のアクションにつなげることが重要だと思います。

#### **東 構成員**

この数年の東田エリアの変化について、良いように変わっている実感がありますが、その実感とこの結果に違和感があります。具体的に言えないのですが。

#### **仲間 座長**

その感覚は、住んだり行ったりした実感からするとすごく良くなっているのに、それがうまく表現されていないというもどかしさだと思います。

#### **事業課**

こういった指標については、定量化を求められるのでこんな感じになってしまいます。もう少し定性的なところを、どの程度できるかわかりませんが、表現を改められるところは改めていきたいと思います。

#### **横田 構成員**

定性の定量化を進めていってはいかがでしょうかと思います。

#### **今後のまちづくり方策について**

#### **横田 構成員**

東田と東田以外の地区の連携が課題（ソフトというか住民間交流を含めて）共に学びあうための方策があってもよいのではないのでしょうか。情報発信の仕方を、モデル地区であればあるほどもっと工夫すべきだと思います。

#### **牛房 構成員**

残された未解決の課題は、今後、書く予定がありますか。

#### **事業課**

はい。次期計画が決まっているわけではないので、そのまま引き継ぐことにならないと思い、空欄にしていたのですが、5年間の評価は実施しないといけないので、先生方の意見を踏まえて記載したいと思います。

#### **仲間 座長**

全体のストーリーを作るのが難しい地区だと思います。大目標が東田周辺地区をイメージしたものになってしまっている。しかし、エリアは従来からある市街地を含んでいる。東田地区の住民と東田以外の地区の住民の方の共通の価値観や認識、相互理解、交流を生み出すためのソフトがあって、それをハードがサポートして、というようなストーリーを描くしかないのではないのでしょうか。

そうなると、両者をつなぐ役割を担うのは、環境ミュージアムだと思います。環境ミュージアムの入館者数を設定している理由はここにある、入館者の中身が問題だと思います。このエリアの住民がどれだけ利用しているのか。ミュージアムエリアが、2つのエリアの新しい技術と旧来型の持続可能なライフスタイルを結ぶ役目を果たさないといけない。エリアの住民がミュージアムを訪れる仕組みをつくるというのが今後の方策にあがってくるのではないかと思います。

実際に、地域の方は来ていますか。

## 事業課

自治区会に声をかけて来ていただいているケースはもちろんあります。物理的にも気持ち的にも乖離があると思います。西側は、特に3号線があることから、なかなか歩いていこうという気にならない。東田地区は、IT系や物販系の企業の方が多く住んでいて若い方が多い。旧市街は、年配の方が多いうのでうまくソフトが機能すれば連携できるのではないかと。今後、地元のNPOや中央町の方とも相談して進めていきたいと思っています。

## 仲間 座長

難しいかもしれませんが、そこは企画力の問題なので、がんばっていただきたいと思っています。

## 牛房 構成員

地区を管轄する区役所とも連携して進めた方が、色々アイデア・情報があると思います。

## 事業課

まちづくり連絡会や協議会があり、八幡東区役所もアドバイザーという立場で入ってもらっています。今後、区役所とも連携をとっていきたいと考えています。

## 仲間 座長

現場のまちづくり推進課などが、一番情報を持っていると思います。現場の課題に対してきちんとかみ合うソフト面の企画など、色々アイデアが出てくるとと思います。

## 仲間 座長

それでは「事後評価原案の公表」について、ご意見があれば頂きたいと思っています。

## 仲間 座長

質問ですが、北九州市では、ケーブルテレビでの広報はありますか。

## 事業課

あります。しかし、この計画についての広報ではありません。

## 事務局

広報については、事務局が中心になり行っています。

公表の際には、事後評価原案とあわせて、概要（計画・事業・評価をわかりやすくまとめたもの）を公表しています。これは、整備計画や事後評価原案だけでは、一般的に非常にわかりづらいため、内容をわかりやすく紹介するため、概要を作成しています。また、今回、事後評価原案の公表について、アクセスしやすいように、市ホームページのトップページで表示するように工夫しました。

ただ、やはり広報（PR）という意味では、難しいと感じています。

## 仲間 座長

「都市再生整備計画事業事後評価原案」という名称が硬い。この字面で出したら、絶対見ないと思います。告知する義務により、原案自体を閲覧できる手続きは必要だと思いますが、それとは別に、事業の説明会やワークショップの場でオープンに

していいのでしょうか。そして、その過程の意見も原案に記載したらいいと思います。

**横田 構成員**

八幡地区で、ワークショップは行われていますか。

**事業課**

東田ワークショップというのを継続してやっています。

**横田 構成員**

実際には、地元の方と意見交換などを行い汗を流されていると思います。けれど、原案では、そのあたりがあまり伝わってこないのが残念に感じます。実際に取り組まれていることを具体的に書くなど、表記を工夫されてはどうでしょうか。

**事務局**

定性的な効果発現状況や実施過程の評価欄など、やっていることをわかりやすく工夫して記載するようにしたいと思います。

**仲間 座長**

それでは、全体を通じて、他に意見はありますか。

**横田 構成員**

実施した事業の評価を行っている感じですが、本来、課題を解決するための事業の設定が非常に重要だと思います。

**仲間 座長**

八幡地区において一番の課題は、地区間交流だと思います。それを今後の課題として記載されたらよいと思います。

**仲間 座長**

色々ご意見をいただきましたが、現時点で事後評価の手続きが適切に遂行されているということによろしいでしょうか。

**構成員一同**

了解。

# 会 議 録

名 称	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会
議 題	H 2 1 年度、H 2 2 年度事後評価地区のフォローアップ
開催日時	平成 2 3 年 1 2 月 7 日 (水)
開催場所	北九州市役所 1 5 階 特別会議室 B
出席者	北九州市都市再生整備計画事業事後評価検討会 構成員 座長 仲間 浩一 (九州工業大学大学院 工学研究院 教授) 牛房 義明 (北九州市立大学経済学部 経済学科 准教授) 東 恭子 (第 10 期 北九州ミズ 21 委員会委員) 横田きみよ (コンセプトピディア 代表) フォローアップ担当課 建築都市局区画整理課 (北九州学術研究都市地区) 産業学術振興局観光コンベンション課 (門司港地区) 産業学術振興局観光コンベンション課 (皿倉・河内地区) 検討会事務局 建築都市局事業調整課
構成員の 主なご意見	<b>事務局よりフォローアップの概要を一括説明</b>  最後になりますが、昨年、一昨年に事後評価を実施した地区のフォローアップについて、私から一括で報告させていただきます。フォローアップにつきましては、事後評価の際に、推計値で評価を行っていたものについて、実測値が確定した時点で、実測値に置き換え、事後評価の確認を行うものです。  今回の報告対象は、H 2 1 年度完了の門司港地区、H 2 2 年度完了の北九州学術研究都市地区、皿倉河内地区の 3 地区でございます。なお、H 2 2 年度完了の中央公園地区につきましては、評価に用いる市制モニターアンケートの結果集計が今月末になる予定のため、来年度にフォローアップを行う予定です。  それでは、報告に移ります。まず、お手元の A 4 横フォローアップ報告書をご覧ください。報告書の構成を説明いたします。表紙を開けて 1 ページ目の「1. 数値目標の確認(確定値)」です。水色の部分が、事後評価の時点で報告した内容です。事後評価で推計値を使っていた場合、評価値欄横の「見込み・確定の別」の欄の見込み部分に が入っています。今回、この数値が確定したものを、赤の部分、フォローアップによる確定値の欄に記載しています。この確定値と、推計値とが大きく異なった場合には、右から 2 つ目の欄に、その理由と改善の方向性を記載します。 また、この確定値と、推計値とが大きく異なった場合、次ページの「2. 今後のまちづくり方策の検証」で、昨年作成した「成果を持続させるために行う方策」「改善策」の再検証を行うこととなります。  先に結論からご報告いたしますと、今回フォローアップを行う 3 地区につきましては、確定値と推計値に大きな差があったものはございませんでした。従いまして、今回の報告では、主には、A 3 横の概要(参考資料)で、指標の状況を説明させていただき、あわせて各地区のトピックスを紹介させていただきます。

### 【門司港地区】

まずは、門司港地区でございます。門司港地区では、左端PLAN欄の4つの目標に対し、CHECK欄の3つの指標を立てて、事後評価を行いました。これら指標のうち、指標1観光入込客数、指標2イベント開催数について、H21年12月時点では、推計値を使って評価を行っていたものを、今回、実測値に置き換え、評価の確認を行ったものです。

指標1、観光入込客数は、目標242万人に対し、評価時点の推計値231万人が、実測値222万人に、指標2、イベント開催数は、目標値236回に対し、評価時点の推計値265回が、実測値276回となっています。指標1の数値は、評価値よりやや低い数値という結果でしたが、事後評価時に説明させていただいた通り、今後のまちづくり方策で、鋭意改善に努めていきたいと考えております。

なお、門司港地区につきましては、H22年度より、都市再生整備計画の第2期計画に取り組んでおります。

第1期計画で課題となっていた滞在時間の長時間化、旧市街地への回遊性の強化への対応として、和布刈公園の整備や旧市街地にある歴史的な建造物「旧三宜楼の活用」などに、取り組むこととしていることをご紹介します。

### 【北九州学術研究都市地区】

次に、北九州学術・研究都市地区でございます。お手元のA3横の概要資料をご覧ください。北九州学術研究都市地区では、4つの目標に対し、5つの指標を立てて、事後評価を行いました。これらすべての指標で、推計値を使っていたため、今回、実測値に置き換え、評価の確認を行ったものです。

指標1、研究員数は、目標370人に対し、評価時点の推計値330人が、実測値312人に、指標2、進出企業数は、目標値50社に対し、評価時点の推計値57社が、実測値54社に、指標3、地区の人口は、目標2,329人に対し、評価時点の推計値4,990人が、実測値4,775人に、指標4、環境保全活動の参加者数は、目標値426人に対し、評価時点の推計値440人が、実測値489人に、指標5、観客動員数は、目標6万人に対し、評価時点の推計値12万4千人が、実測値15万1千人になっています。

指標1、2では、確定値が推計値を若干下回っておりますが、事後評価の方向性は昨年と変わっておりません。事後評価時に説明させていただいた通り、今後のまちづくり方策で、鋭意改善に取り組んでまいりたいと考えております。

なお、本地区につきましては、この事業で整備を行った技術開発交流センターが、本市のカーエレクトロニクス拠点として更に活用されているほか、市民対象の交流イベントで活用されるなど、地域の魅力づくりに貢献しています。

北九州学術・研究都市北部土地区画整理事業にも良い効果が現れており、保留地の販売状況が好調で、これまでに住宅用地として販売した保留地226区画のうち、224区画がすでに契約済みの状況となっていることを紹介させていただきます。

### 【皿倉・河内地区】

次に、皿倉・河内地区でございます。お手元のA3横の概要資料をご覧ください。

皿倉河内地区では、4つの目標に対し、4つの指標を立てて、事後評価を行いました。これらすべての指標が推計値を使っていたため、今回、実測値に置き換え、評価の確認を行ったものです。

指標1、観光入込客数は、目標70万人に対し、評価時点の推計値39.4万人が、実測値33.5万人に、指標2、宿泊観光客数は、目標5万人に対し、評価時

点の推計値 2.8 万人が、実測値 2.4 万に、指標 3、観光消費額は、目標値 37 億円に対し、評価時点の推計値 21 億円が、実測値 18 億円で、指標 4、皿倉山頂でのイベント集客数は、目標値 4 万 4 千人に対し、評価時点の推計値 4 万 5 千人が、実測値 4 万 7 千人になっています。

昨年の検討会でもご指摘を受けましたが、指標 1～3 は連動しており、実測値が評価時点の推計値を同じように下回っています。これらについては、事後評価時に説明させていただいた通り、今後のまちづくりで、しっかり改善に努めていきたいと考えております。

なお、本地区では、昨年から皿倉山頂で実施しているビアガーデンのイベントが好調で、昨年約 9 百人だった参加者が、今年は 5 倍増の 4 千 6 百人となっています。また、夏休み期間中のケーブルカーの利用客数も、昨年約 4 万 2 千人が、今年は 13.6% 増の約 4 万 8 千人という状況でした。

情報発信の効果が表れてきているものと考えられ、今後もこのような取り組みを継続して実施してまいりたいと考えております。

また、皿倉地区につきましては、来年度以降、八幡地区と併せて第 2 期の計画策定を検討中であることもご紹介させていただきます。

最後に、今後の手続きについて説明させていただきます。このフォローアップ報告書は、今後、国土交通省に提出するとともに、本市の事後評価のホームページに、掲載させていただくこととしております。

以上で、ご報告を終わります。ご質問等がございましたら、よろしく願いいたします。

### フォローアップに対する構成員の意見

仲間 座長

全体を通じた話でよいですか。

事務局

はい。

仲間 座長

大きな差異がある場合という項目があって、今回は無いということですが、何% ぐらいだったら大きな差異と判断されていますか。

事務局

大きな差異とは、評価の際に、 を付けていたものが になった、 だと評価していたものが × になった。そういう形で評価されるということになった場合には、プラス で改善の形を上乗せしていかなければならないというふうに考えています。大きな差異があって評価が去年お話しさせていただいた内容と変わるという状況であれば、ここで議論させていただくことも考えていたんですが、そういう状況ではないので、逆に、今、進んでいるまちづくりの状況を紹介させていただいて、そういうものに対して、ご意見をいただくのがよろしいのかなと。よって、今回のご説明の形にさせていただきました。

仲間 座長

そういう意味ですか、わかりました。

観光全体でいうと、特にレトロみたいなところは、地震とか放射能事故の問題でアジアからの観光客が大幅に減っている。その辺の影響も3月以降あったのかもしれないと思います。

#### 【皿倉・河内地区について】

##### 仲間 座長

皿倉地区の確定値は懸案事項を含んでいると感じます。予測値に対して確定値が15%減っているのは問題があるのではないかと思います。過去5年間の数値をベースに推計値を出しているので大きくずれることはないと思いますが、フォローアップの内容を修正しろということではありませんが、何か事情があれば教えてください。

##### 担当課

H22年次の観光動態調査が下がっていました。ケーブルの利用者数は落ちていないので確定値も伸びるはずですが、12月末で集計するのでその後の1月から3月までの伸びは反映されていません。

##### 東 構成員

帆柱の展望台に飲食店があったと思いますが、今も続いていますか。

##### 担当課

事業者がこの4月から変わっていますが、継続してやっています。

#### 【北九州学術研究市地区について】

##### 牛房 構成員

北九州学術研究都市地区の指標について、目標4の指標の観客動員数はかなり数字がいいですが、現在新スタジアムの検討などもなされており、今後指標が変わる可能性があるのですか。

##### 担当課

北九州学術研究都市地区については今回で整備計画は終了します。前回は指摘がありました。観客動員数はギラヴァンツの効果で目標値の数倍になっていますが、サッカーの入込客数を除いたところを緑色の線で示しています。仮にスタジアムができた場合、サッカーの入込客数が削られて、それ以外の利用として緑部分の値で継続的に使用されると想定されます。

#### 【門司港地区について】

##### 牛房 構成員

門司港地区は、続けて事業を行うのですか。九州新幹線が開業して、観光客数が変動した等の影響はありますか。

##### 担当課

第2期計画の現在2年目です。

九州新幹線の影響わかりませんが、レトロ施設のそれぞれの入館者数は伸びております。遠出をしないで、近場の観光地で過ごすことが多いようです。

## 東 構成員

観光列車の乗車人数が減っていると新聞記事で拝見したが、最近ではテレビや新聞で観光列車の記事を見かけなくなったが、PR不足ではないでしょうか。門司港地区は第2期計画を行うとのことですが、整備したら終わりではなく、継続したPRの仕方が鍵になるのではないかと思います。

## 担当課

皿倉地区のピアガーデンの話をしましたが、やはりPRが非常に効果を出しておりまして、その前は800人だった観光客が4,600人まで増えました。

観光列車については、1年目の開業効果もあったと思いますが、うまく継続ができていないことも原因だと感じています。再度検討する必要があると思います。

## 東 構成員

門司港地区の指定管理者の対応が悪く、例えば、観光客の前で私語が多いなどの話も聞いています。おもてなしをする側が、こういうことではどうかと思います。

## 担当課

指定管理者への苦情等については、観光客からのアンケートをとりながら、市と指定管理者で定期的に会議を行っており、市の方にすべて情報が入ってきておりますが、まだまだ、反映されていないこともあるみたいなので、担当ラインに話しておきます。

## 仲間 座長

フォローアップにより、これで事業の評価が終わったところもありますが、特に観光系のところが多く、市民の日常的生活と少し違う観点で、地域振興を図らなければならないと思います。これから事業を進める地区では、推計値や目標値を設定していくこととなり、事業が終了したところは、何らかの形で見守ることと思います。

特に門司港地区は、指標値を維持するために、次々にイベントを行っていくのを恐れています。今後はイベントの質が問われてくると思うからです。

門司港で、どのようなホスピタリティがあるのか、指定管理者に対する人材教育や人材育成などを含めて、まちづくり交付金事業によって、ソフトやハード整備した地区の質を高めるために、次の年は何を行うのか、手を替え、品を替えて、指標値を維持することではなく、質の向上を意識して、事業計画の工夫をしていただきたいと思います。

これだけ、人口も減って、観光地もライバルが多い中で、観光入込客数が横ばいでも十分だと思います。

満足度とか、滞在時間などの質の問題を意識して欲しいです。まちづくり交付金事業の終わった地区も、今後の事業展開を考えていただきたいと思います。